

教科(科目)	家庭(家庭基礎)	単位数	2単位	学年(コース)	2学年
使用教科書	実教出版『図説家庭基礎』				
副教材等	第一学習社『最新生活ハンドブック 2023』				

1 学習目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
- (2) 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。
- (3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

2 指導の重点

大学進学希望者が多く早期の自立が求められていること、18歳成人を間近に控えていることから、

- ① 自己の成長を振り返りながら家族や家庭生活について理解を深め、自立した生活を営むために必要な知識と技術の習得を目指します。
- ② 卒業後の生活を具体的に思い描きながら、生活課題に主体的に取り組む態度を育てます。
- ③ 消費行動における意思決定の重要性について理解を深め、必要な情報の収集・整理ができることを目指します。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生活を主体的に営むために必要な、人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などの基本的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。

4 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ ペーパーテストの分析 ・ 実習記録および作品の内容 ・ レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ ペーパーテストの分析 ・ 実習記録および作品の内容 ・ 授業中の発言、発表や取組の観察 ・ レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 ・ 振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 授業中の発言、発表や取組の観察 ・ レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 ・ 振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」 で評価します。		

5 学習計画

月	単元名	授業時数	教材名	学習活動(指導内容)	評価の観点	評価方法
4	家庭科を学ぶにあたって 第1章 自分らしい生き方と家族	1 6	図説家庭基礎 生活ハドブック 社会への扉 生活のリスクを考えよう	<ul style="list-style-type: none"> ・「家庭基礎」を学ぶにあたって、学習の意義や内容、情報収集、レポートの書き方など学習の方法、評価の方法を理解する。 ・これからの人生で起こりえるライフイベントを考え、発達課題や経済設計について考える。 ・演習(高校卒業までの教育費、進学費用のシミュレーション) 	a b c	ワークシート 家庭生活レポート
5	第2章 子どもとかわる	6	図説家庭基礎 生活ハドブック DVD	<ul style="list-style-type: none"> ・自立の観点から自分らしい生き方について考える。 ・子どもの身体の成長について大まかな流れと特徴を学ぶ。 ・子どもの人間形成において保育や人とのかわりがいかに重要であるかを考える。 演習(幼児期の影響を探る) 	a b c	ワークシート 保育レポート
6	第3章 高齢者とかわる 第4章 社会とかわる	3 2	図説家庭基礎 生活ハドブック	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの生活習慣の形成や健康管理、安全対策の重要性について学ぶ。 ・高齢者の心身の変化と生活について学習し、高齢者を支えるための心持について考える。 ・福祉、ソーシャル・インクルージョンの考え方を学び、社会保障制度とその目的について学ぶ。 	a b c	ワークシート
7	ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動 第5章 食生活をつくる	2 16	図説家庭基礎 生活ハドブック	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決学習としてのホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動を知り、家庭科の学習を通して得た知識・技能を活かし、家庭や地域の課題を見いだし解決する。 ・食生活の変化と問題点について学ぶ。 ・5大栄養素と水について学習し、からだとのつながりについて考える。 	a b c	期末考査 レポート 発表評価表 ワークシート
9			図説家庭基礎 生活ハドブック	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養素の働きと多く含む食品について学ぶ。 ・食品群別摂取量のめやすを見ながら、健康な生活を営むために、何をどれだけ食べればよいのかを学習する。 	a b c	ワークシート
10			図説家庭基礎 生活ハドブック DVD	<ul style="list-style-type: none"> ・食中毒の種類や予防法等を理解し、衛生的な調理や食事管理について学ぶ。 ・食品添加物、輸入食品など食の安全に関わる問題について学習し、食品の品質表示の見方や選択する際のポイントを学ぶ。 ・調理実習(和食・洋食・中華料理) 	a b c	ワークシート 食生活レポート 調理実習及び記録

11	第6章 衣生活をつくる	10	図説家庭基礎生活ハンドブック DVD	<ul style="list-style-type: none"> ・衣服素材について理解し、表示の見方や家庭での洗濯・保管方法などについて学ぶ。 ・衣服購入から処分までの流れを学習し、ファストファッションについて事例を挙げながら、商品選択の際に心がけることを考える。 	a b c	ワークシート 被服作品及び記録
12	第7章 住生活をつくる	10	刺し子 図説家庭基礎生活ハンドブック DVD	<ul style="list-style-type: none"> ・被服制作実習(刺し子) ・基本的な平面図の読み取り方を学習し、快適な室内環境について学習する。 	a b c	期末考査 ワークシート 住居レポート
1	第8章 経済的に自立する	3	図説家庭基礎生活ハンドブック	<ul style="list-style-type: none"> ・演習(一人暮らしのシミュレーション) ・家計の収支を理解し、ライフイベントや生活のリスクなどに備えた、生涯を見通した経済計画と管理について学習する。 ・保険や金融商品などの種類や特徴について学ぶ。 	a b c	ワークシート
2	第9章 消費行動を考える	5	図説家庭基礎生活ハンドブック Caution! DVD	<ul style="list-style-type: none"> ・「契約」について学ぶ。 ・消費行動における意思決定のプロセスや、生活情報の活用について学ぶ。 ・多様な販売方法や、問題商法の種類と対処法について学習する。 ・多様化している支払い方法や多重債務の予防と対処について学習する。 	a b c	ワークシート
3			図説家庭基礎生活ハンドブック クレジットライフの始め方	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちの生活と環境問題との深いかわりに気づき、自らの行動や選択を環境に配慮したものに変えることができるようにする。 	a b c	ワークシート 経済レポート

計64時間(55分授業)

6 課題・提出物等

- ・ 单元ごとに、使用したワークシートやレポートをまとめて提出してもらいます。
- ・ ワークシートには授業の内容も記録して、定期考査対策に活用できるようにします。
- ・ 成績に占める評価の割合が高いので、締め切りを守って必ず提出するようにしてください。

7 担当者からの一言

「家庭基礎」は、高校卒業後、自立した大人になるために必要なことを身につけていく科目です。自立した生活を送るために今の自分に何が必要かを考え学習したり、これから起こる様々な生活課題にどう対処していけばいいかを体験的に身につけたりしていきます。

自分の進路を選択し、なるべく早い準備が求められる2年生のこの時期に、これからの自分の進む道や自分らしい生き方について真剣に考えることはとても大切なことです。授業では、自分の夢や今後の生活を、どれだけ現実的にイメージできるかが重要で、自分の意見をしっかりとレポートなどの課題に表現してください。卒業後の自分を思い描きながら、その実現に向けて一人ひとりが目的意識をもって楽しく取り組める授業にしたいと思っています。

(担当:堀田 佳織)